

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科
科目名称 [英語名称]	保育内容指導法(音楽表現) [Teaching Method for Music Expression of Early Childhood Care and Education]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750071	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	早川 純子			学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP1(2) DP3(1) DP3(3) DP3(4)		
授業概要	<p>この授業では、幼児の発達段階に応じた様々な音楽表現を身につけること、また基礎的なコード進行を学び簡易伴奏の技能を習得することを目的とする。</p> <p>幼児の発達の理解と音楽を通じた表現活動の体験学習を通して実践力を身につけ、音楽表現活動の「聴く」「歌う」「動く」「奏でる」「つくる」の観点から、幼児の活動の意義とねらいを踏まえ、実践を想定した保育技術の習得を図る。簡易伴奏法の学習では、左手による簡単なコード奏をコードフォームによって感覚的に身につけ、あらゆる楽曲にコードを付けて簡単に演奏したり、声域に合わせて移調することができるようになることを目指す。</p>						
関連する科目	事前に「音楽演習A」および「音楽演習B」を履修し、ピアノ実技の基礎力を身につけ、鍵盤奏に習熟していることが望ましい。本授業と並行して、または履修後に「音楽演習C」および「音楽演習D」を履修し、より応用力を高め実践的力						
授業の進め方と方法	毎回の授業において、理論と実技を行います。1回の授業の構成は下記の通りです。授業の前半で、発達段階や保育技術の理論を学び、後半で季節の歌・手あそび・簡易伴奏法を実践的に学習します。						
授業計画	<p>第1回：導入(オリエンテーション)：豊かな表現力や人間性を養うために</p> <p>第2回：幼児の発達と表現、4月の歌、ハ長調の主要三和音</p> <p>第3回：音楽の基礎的な要素と音楽表現、5月の歌、属七の和音</p> <p>第4回：幼児の発達と音楽表現、6月の歌、ハ長調のコードネーム</p> <p>第5回：聴く活動、7月の歌、二長調の主要三和音</p> <p>第6回：歌う活動、8月の歌、二長調のコードネームとハ長調への移調</p> <p>第7回：歌う活動の援助、9月の歌、ハ長調の主要三和音</p> <p>第8回：奏でる活動、10月の歌、ハ長調のコードネームと移調</p> <p>第9回：奏でる活動の援助、11月の歌、ト長調の主要三和音</p> <p>第10回：動く活動、12月の歌、ト長調のコードネームと移調</p> <p>第11回：動く活動にあった援助、1月の歌、ハ長調・二長調・ハ長調・ト長調の復習</p> <p>第12回：つくる活動、2月の歌、調号が2つの調性</p> <p>第13回：幼児の活動にあった援助(つくる活動)、調号が3つの調性</p> <p>第14回：いろいろな音楽教育法、3月の歌、</p> <p>第15回：冬の歌②遊び歌、手遊び、和声のまとめ</p> <p>* 毎回簡単な和声課題を課し、鍵盤で弾く。</p>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児の発達段階や季節や機会に応じた歌唱、あそび歌、手あそびを数多く身につけること。</li> <li>2. 「歌う」「聴く」「奏でる」「つくる」「動く」活動の技術を身につけること。</li> <li>3. 主要三和音のコードフォームを身につけ、簡易伴奏ができるようになること。</li> <li>4. 人前で歌ったり身体表現をすることに習熟すること。</li> </ol> <p>* 授業での実践と自主練習を通し、着実かつ確実に習得する。</p>						
授業時間外の学修	主要三和音の習得は簡易伴奏法を身につけるための絶対条件であり、幼稚園・保育所実習では必ず必要となる技術であるため、コードフォームの復習は必ず行い確実に身につけること。						
課題に対するフィードバック	テストや課題は、評価後に返却および解説をします。	評価方法			受講態度：60%、オリジナル手あそび作成課題：20%、筆記試験：20%		
テキスト	村上玲子・上谷裕子・櫻井琴音 編『アクティブラーニングを取り入れた子どもの発達と音楽表現』(学文社)大石みつ・下村幸・鳥居美智子 共編『楽しい歌とあそび』(音楽之友社)(※2年「音楽演習B」でも使用)全国大学音楽教育学会						
参考書	『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)『保育所保育指針』(フレーベル館)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(内閣府・文部科学省・厚生労働省)						
備考	多くのピアノ伴奏の経験を有し、小学校低学年のTT経験のある教員が担当します。						